

### 3 - 15 東伊豆沖（相模湾南西部）の海底地形・地質構造について - 速報 -

#### Submarine Topography and Geological Structure off East Coast of Izu Peninsula. (Preliminary Report)

海上保安庁水路部  
Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

水路部は昭和51年10～12月、伊豆半島東部の地盤隆起に関する特別研究の一環として、相模湾南西部海域の海底地形・地質の調査を行なった。調査結果のとりまとめは現在なお進行中であるが、中間的な1/5万海底地形図が出来たので速報する（第1図）。

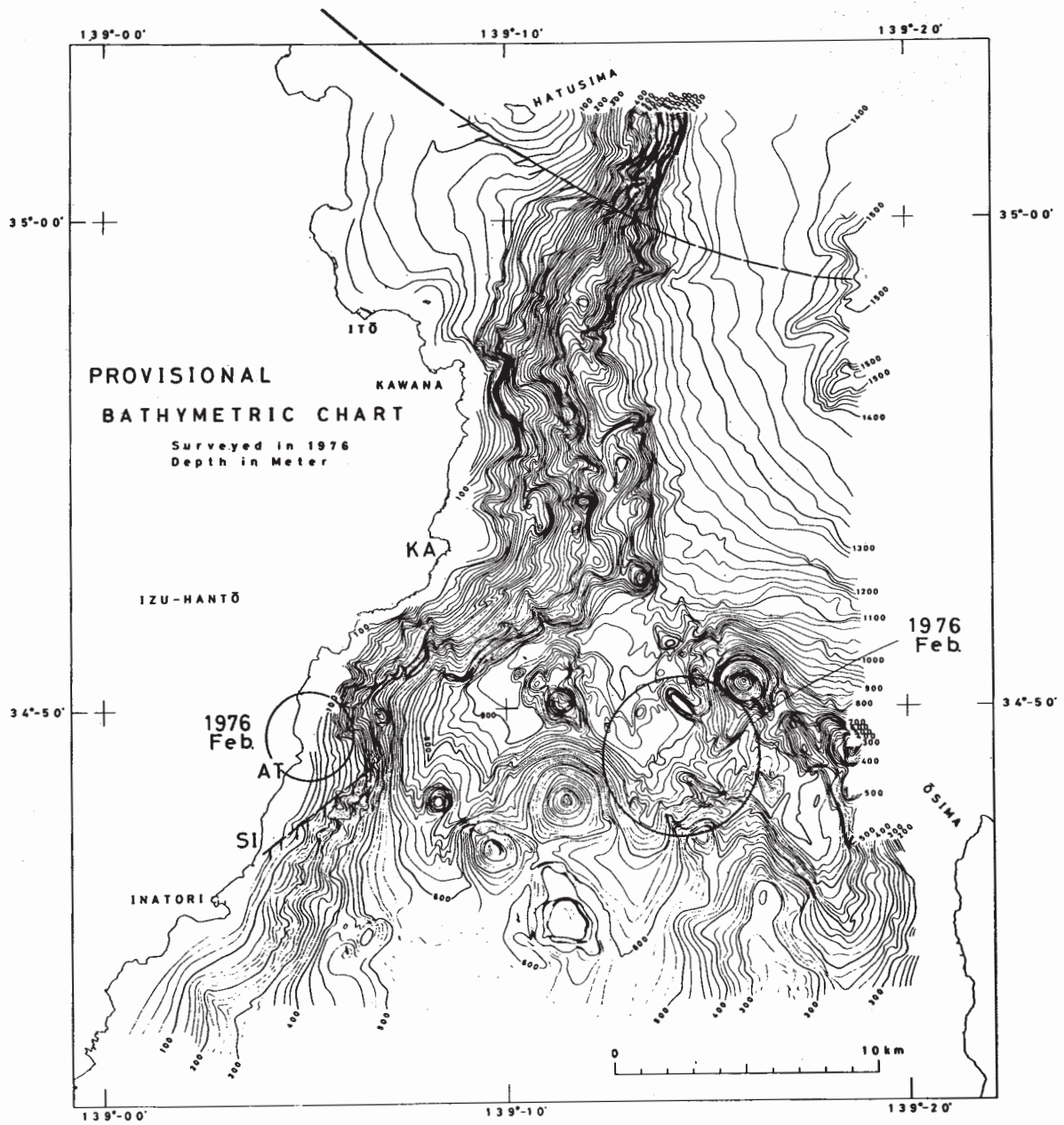
調査は東西方向の測線500m間隔、南北方向1～3km間隔で実施し、精密電波測位機・音響測深機、エアガンおよび電磁誘導型の音源をもつ音波探査機が投入された。測量船は明洋（450t）である（第2図）。

群発地震（1976, Feb）の発生した伊豆半島と大島間の海域は、円錐形海丘群に挟まれた小トラフ状の凹地となっている。もう一つの群発地震発生海域である北川沖は大陸棚上にあたり、大陸棚外縁付近は起伏に富んだ海底谷に移行している。

伊豆半島沿岸の大陸棚外縁水深は伊東沖から門脇崎（KA）沖にかけて150～160m、熱川（AT）～稲取120～140mであり伊東沖で深まっている。

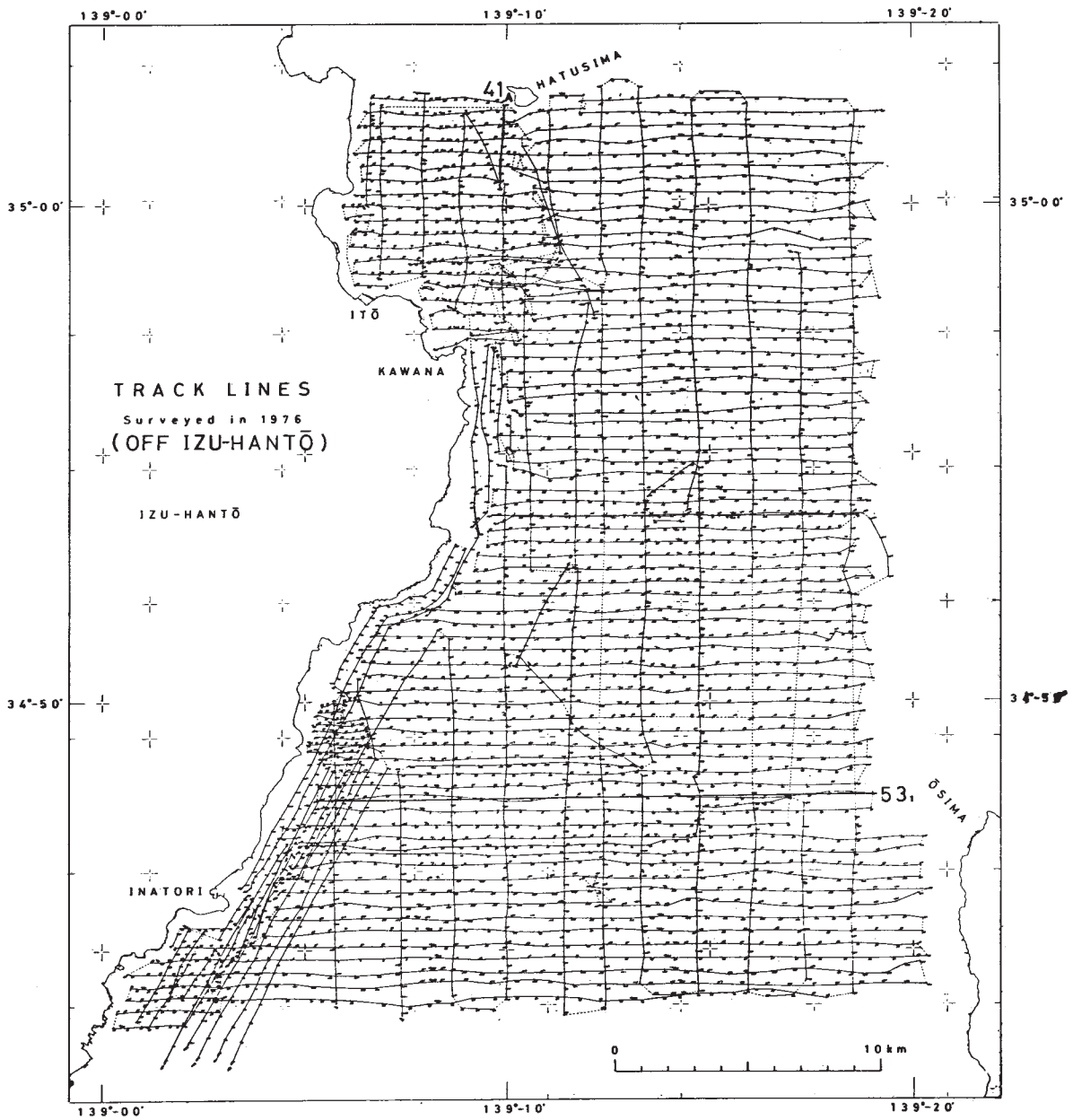
初島の南縁には地形面の変化から考えてNW-S Eの断層帯が推定される。一部出来上った音波探査記録もこれを支持している（第3図）。

熱川・白田（ST）沖には大陸棚から大陸棚斜面にかけてNE-S Wに走る地形の乱れが見られ活構造の可能性はある。（52.2.21, 桜井操）



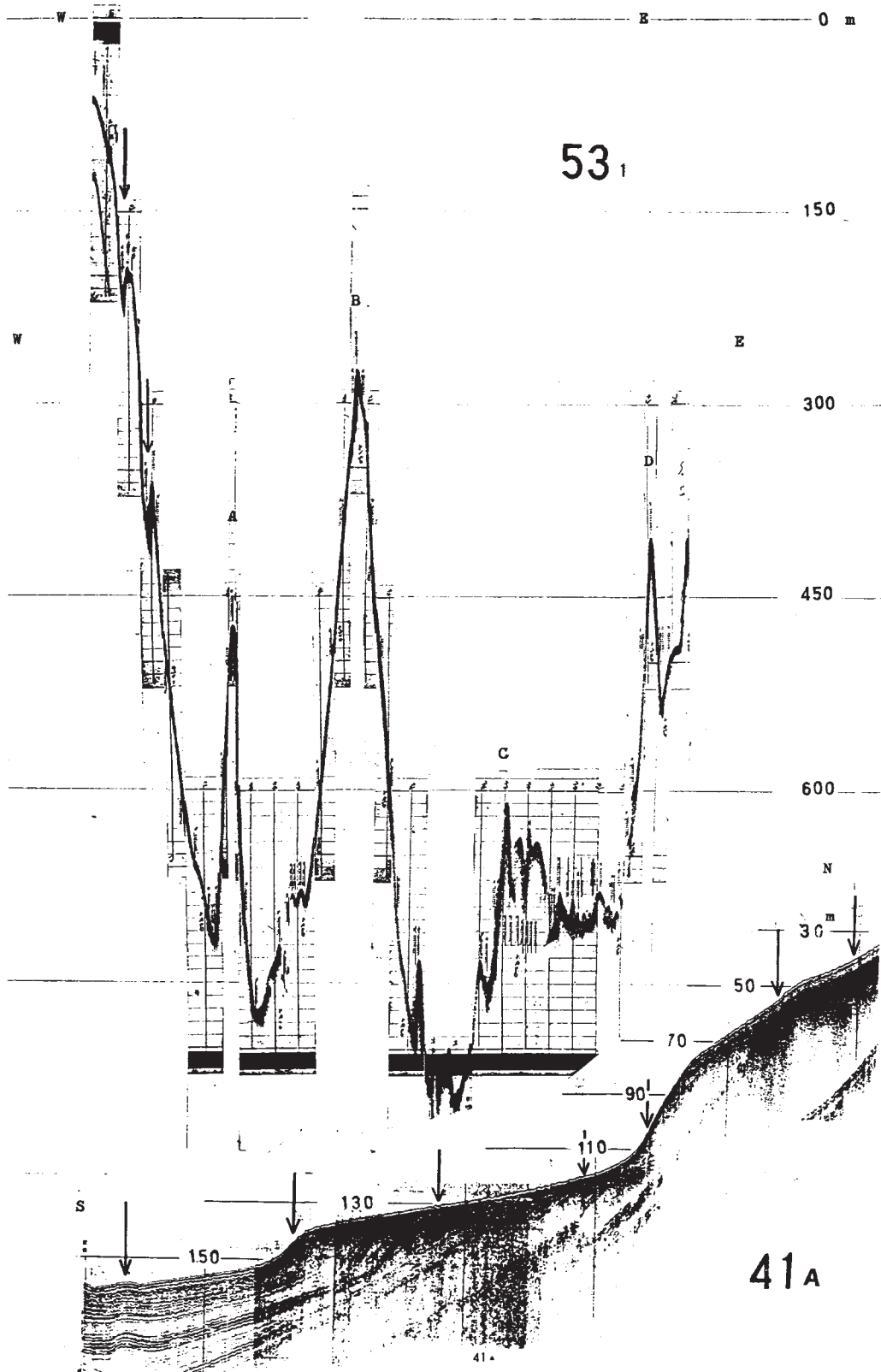
第1図 海底地形図（暫定）

Fig. 1 Provisional Bathymetric Chart.



第2図 調査測線図

Fig. 2 Track Chart.



第3図 白田沖の音響測深断面（ $53_I$ ）と初島南方の音波探査断面（ $41_A$ ）。矢印は活構造と推定される断層，褶曲

Fig. 3 Echogram off SIRATA( $53_I$ ) and Seismic Profile Southward of HATUSIMA. ( $41_A$ )  
Arrow sign shows fault or folding, suggesting active structure.